

第7次智頭町総合計画

基本計画に基づく実施計画(平成29年度～平成33年度)

(千円)

将来像	基本理念	基本計画					担当課	優先度	H29年度 (実績)	H29年度 (評価)
		視点	方針	事業 番号	番号	実施計画				
ちづ暮らしの道しるべ 一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ	Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり	①学び	(1) 生活の知恵から趣味や仕事まで、くらしを彩る学びを増やす	1	65	保小中連携による教育活動の向上	教育課	○	0	C
				2	66	特別支援教育支援員の配置による特別支援教育の充実	教育課	◎	12,958	B
				3	67	学校評議員の意見を取り入れた学校運営の充実	教育課	△	0	C
				4	68	教職員の教育力の充実	教育課	○	19	C
				5	69	学校現場でのICT機器の活用	教育課	○	7,308	C
				6	70	開かれた学校づくりの充実	教育課	○	0	C
				7	71	児童生徒の顔が見える少人数学級の実施	教育課	◎	0	B
				8	72	学校不適応児童生徒に対する適切な指導の推進	教育課	◎	431	C
				9	73	学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着	教育課	○	0	C
				10	74	国際感覚の醸成(韓国江原道楊口郡との交流と英語教育の充実)	教育課	○	2,417	C
				11	75	学校図書館の充実(学校司書配置継続と図書館との連携強化)	教育課	○	5,189	B
				12	76	智頭町教育ビジョンに基づく教育(成果の検証とさらなる向上対策の推進)	教育課	○	500	C
				13	77	青少年の健全育成の推進	教育課	◎	886	C
				14	78	ちづNEXT	企画課	○	0	E
				15	79	地域の良さと歴史文化など、郷土を大切に学習の導入	教育課	○	0	C
				18	80	図書館を中心にした賑わい創出(総合戦略事業)	教育課	◎	41	C
				19	81	各文化サークルの活動支援と参加者の加入促進	教育課	◎	470	C
		20	82	文化財保護・活用方策の明確化	教育課	◎	2,700	C		
		21	83	地域伝統文化の後継者育成	教育課	◎	0	C		
		22	84	各地区公民館の地域の生涯学習拠点施設としての明確化	教育課	◎	26,722	C		
		23	85	各地区公民館と中央公民館の役割の明確化と連携強化の促進	教育課	◎	0	C		
		24	86	図書館事業	教育課	◎	28,724	C		
		16	87	智頭農林高校との連携	企画課	○	6,995	C		
		17	88	森林・林業教育の推進(児童・生徒の学習体験、木育の推進等)	山村再生課	△	1,147	C		
		②仕事	(2) 受け継いだきた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる	12	89	企業支援事業	企画課	◎	0	B
				13	90	商店街との連携による空き店舗の活用検討	企画課	○	0	C
		③仲間づくり	(3) 活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に連ねるコミュニティへ	3	91	イベント活性化促進事業	企画課	○	0	B
				4	92	ゼロイチの更なる発展	企画課	○	19,735	C
				7	93	空き校舎等活用推進	企画課	○	17,310	C
				8	94	空き校舎等利活用研究事業	企画課	○	300	C
				9	95	地域体育館(空き校舎)の生涯学習・交流の場としての活用	教育課	○	0	C
				11	96	百人委員会	企画課	◎	4,554	C
				12	97	総合計画周知及び実践事業(検証含む)	企画課	○	1,620	C
16	98			国内交流事業の積極的な推進	企画課	○	7	C		
17	99			国際交流の推進	企画課	○	2,313	C		
合計										142,346

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 保小中連携による教育活動の向上

事業番号

学び 1 (65)

Purpose

(事業の目的)

小1、中1で表れる問題やギャップなどに解消のため、保育園、小学校、中学校のそれぞれの間で連携していくとともに、児童生徒の相互交流を進める。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 教職員の連携
- 2 児童生徒の交流
- 3 保護者への情報提供

Do（目的達成のために実行したこと）

教科でつながる小中連携授業力向上支援事業活用
中学校出前授業、小（中）学校体験入学
早期支援コーディネータによる巡回相談
スクールカウンセラーの活用

Act（目的達成のために改善する事）

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用

Check（目的達成できたかを確認）

中学校における不登校生徒人数「0」を達成

《評価》

C 学校統合による仲間づくりの効果が表れている。課題を抱えた家庭への対策が必要なため、継続して事業を実施する。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 特別支援教育支援員の配置による特別支援教育の充実

事業番号

学び 2 (66)

Purpose

(事業の目的)

小・中学校に在籍する発達障がいを含む障がいのある子どもたちを適切に支援することが求められているが、教師のマンパワーだけでは、十分な支援が困難な場合がある。このような場合に支援員を配置し、子どもたちへの適切な関わりとスムーズな学級の運営にあたる。

Plan（目的達成のための計画）

1 特別教育支援員の配置

Do（目的達成のために実行したこと）

小学校に特別支援教育支援員を7人配置

Act（目的達成のために改善する事）

特別支援教育の取組や推進を継続し、特別支援学級の運営を行う。
今後とも、特別支援学級が継続されることと、発達障害の児童が一定程度在級する実態から、支援員の継続的な資質向上のための研修が必要となる。

Check（目的達成できたかを確認）

学校及び学級の運営のための必要実態に則して必要人員を配置。
特別支援学級と、支援を要する学級における児童の安定を図ることができている。

《評価》

B 必要人員を配置し、特別支援学級と支援を要する学級における児童の安定を図ることができている。今後、児童の成長とあわせ、支援員の配置の範囲および人員を調整したうえで事業を継続する必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 学校評議員の意見を取り入れた学校運営の充実

事業番号

学び 3 (67)

Purpose

(事業の目的)

学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを実施する。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校評議員会の開催
- 2 各種事業への出席要請

Do（目的達成のために実行したこと）

学校評議員会の実施（小・中）
参観日、学校行事等を文書で案内（小・中）

Act（目的達成のために改善する事）

今後、さらに学校評価によるチェックを行う。

Check（目的達成できたかを確認）

学校評議員と連携し、地域に開かれた学校づくりに努めている。

《評価》

C 学校現場と学校評議員が連携し、地域に開かれた学校づくりに努めている。今後も継続した取り組みが必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 教職員の教育力の充実

事業番号 学び 4 (68)

Purpose

(事業の目的)

町民が期待する学校教育を実現するためには、子どもたちや保護者はもとより、広く社会から尊敬され、信頼される質の高い教師を養成・確保することが必要であり、保護者や地域住民、関係機関などの協力を得ながら学校経営を行います。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 研究テーマへの取組
- 2 授業力アップ研修
- 3 人権研修の実施

Do（目的達成のために実行したこと）

年間2回の学校訪問
教科でつながる小中連携授業力向上支援事業をととした授業改善への取組
授業力アップ研修会（思考スキル）実施

Act（目的達成のために改善する事）

学力向上、授業力向上へ向けたPDCAを回す。

Check（目的達成できたかを確認）

これまで中学校入学時に学力（標準学力調査）が低下していたが、今年度の1年生はほぼ順調に推移した。

《評価》

C 新学習指導要領で求められている授業への転換が必要となる。 今後も継続した取り組みが必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 学校現場でのICT機器の活用

事業番号 学び 5 (69)

Purpose

(事業の目的)

校務に係る業務の情報化による効率化やその他システムの導入を進め、教員が児童生徒と関わる時間を確保する。
ICT機器の活用により児童生徒の学力定着を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校業務システム共同調達
- 2 教育用タブレットの充実
- 3 ICT機器の授業活用

Do（目的達成のために実行したこと）

学校業務支援システムの利用実態調査
研修会参加による情報収集
タブレットで使えるデジタル教材（特別支援教育）購入

Act（目的達成のために改善する事）

効率化を視点とした活用を一層進める。

Check（目的達成できたかを確認）

機器の整備が進み、タブレットを活用した授業も増えてきた。

《評価》

C 県で統一の学校業務支援システムが導入され、校務に係る業務の情報化による効率化を進めている。今後、授業でのICT機器の活用など、さらなる取り組みが必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 開かれた学校づくりの充実

事業番号 学び 6 (70)

Purpose

(事業の目的)

学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを進める。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校公開日（参観日）
- 2 学校だよりの配布
- 3 ゲストティチャーの活用

Do（目的達成のために実行したこと）

創造的学習などで活用できる予算を確保する。

Act（目的達成のために改善する事）

さらに家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図る。

Check（目的達成できたかを確認）

学校公開日、ゲストティーチャーを活用した授業実践がなされた。

《評価》

C 学校公開日、ゲストティーチャーを活用した授業実践などがなされたが、今後も学校現場と連携し、継続して事業を実施する必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 児童生徒の顔が見える少人数学級の実施

事業番号 学び 7 (71)

Purpose

(事業の目的)

児童生徒の集中力、理解力、意欲の持続など、教師からの声かけや机間指導の面、きめ細かな個々への指導や支援を考えた場合、1学級の人数は30人程度までが適切である。県の事業を活用し、少人数学級事業を継続実施する。

Plan（目的達成のための計画）

県の事業を活用し、少人数学級事業を継続実施する。

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・ 県への事業活用申請
- ・ 少人数学級事業実施のための予算確保（町負担ありの事業分）

Act（目的達成のために改善する事）

児童、生徒数の減少により今後、少人数学級事業（町負担あり）の活用が増える。予算確保に向けた計画が必要となる。

Check（目的達成できたかを確認）

少人数学級事業を継続実施することができた。
平成29年度は、中学1年生が県事業活用（町負担なし）

《評価》

B きめ細かな個々への指導や支援を考えた場合、1学級の人数は30人程度までが適切である。今後も県の事業を活用し事業を継続実施する。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 学校不適應児童生徒に対する適切な指導の推進

事業番号

学び 8 (72)

Purpose

(事業の目的)

相談員の配置や、スクールカウンセラーを活用し、児童生徒の相談を受けたり、家庭との連携を図ることにより不登校をなくしていく。スクールソーシャルワーカーの配置により児童生徒、家庭への支援の充実。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 相談員等の配置
- 2 スクールカウンセラーの活用
- 3 スクールソーシャルワーカーの配置

Do（目的達成のために実行したこと）

学校生活適應支援員の配置
スクールカウンセラーの活用、スクールソーシャルワーカーの配置

Act（目的達成のために改善する事）

福祉課と連携した家庭支援の充実

Check（目的達成できたかを確認）

中学校における不登校生徒人数「0」を達成

《評価》

C 中学校における不登校生徒人数「0」を達成したが、今後も課題を抱えた家庭への対策が必要となる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着

事業番号 学び 9 (73)

Purpose

(事業の目的)

家庭と地域の力を引き出し、生活習慣の充実を図るとともに、外部専門家を招へいし、講演会を開催する。家庭では、望ましい生活リズムの習慣化や計画的な家庭学習の実践化に努め、根気強く学習に取り組もうとする姿勢を身につけさせ、生活を自己コントロールする強い意志を養う。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 講演会の実施
- 2 PTA研修会の実施
- 3 ノーメディアデーの取組

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・生活習慣アンケートの実施
- ・学校と連携したノーメディアデー実施

Act（目的達成のために改善する事）

学校と連携したメディアコントロールへの取組が必要である。

Check（目的達成できたかを確認）

生活習慣は概ね確立してきたが、メディアコントロールが課題である。

《評価》

C インターネットに通じる機器を持つ児童生徒が増えたことで新たな課題も生じている。 学校と連携したメディアコントロールへの取組が必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 国際感覚の醸成（韓国江原道楊口郡との交流と英語教育の充実）

事業番号

学び 10 (74)

Purpose

(事業の目的)

智頭町と大韓民国楊口郡との間で、平成11年に交わされた「友好提携に関する協定書」に基づき、その一貫として中学生を中心とした青少年交流事業を実施。また、中学校生徒の英語教育力の向上並びに小学校から早期に生きた英語に触れ、英語教育の充実にむけた実践指導を行うとともに国際理解・国際交流を深めるため、外国語指導助手を配置する。小学校での外国語活動の必修化に対応する事業の実施。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 楊口郡交流
- 2 A L T の配置活用
- 3 学力向上事業（英語）

Do（目的達成のために実行したこと）

- 1 楊口郡交流
4泊5日の受け入れ
- 2 A L T の配置活用
A L T を中学校（月・水・金）、小学校（火・木）に配置。A L T による県内先進地視察研修を実施。
- 3 学力向上事業（英語）
小学生英会話教室の参加枠拡大、地域のネイティブスピーカーを講師に活用

Act（目的達成のために改善する事）

- 1 楊口郡交流
ジェスチャーだけでなく、ハングル講座の開設
- 2 A L T の配置活用
次年度より小中学校それぞれに1名ずつ配置。
- 3 学力向上事業（英語）
新たなネイティブスピーカーの発掘。

Check（目的達成できたかを確認）

- 1 楊口郡交流
ジェスチャーやホームステイを通して異文化に触れることができた
- 2 A L T の配置活用
小学校では外国語活動すべての時間でA L T を活用できた。
- 3 学力向上事業（英語）
参加人数が増加した。

《評価》

C: 交流を通して異文化に触れている。楊口郡交流の受け入れ協力家庭が少ないため課題となっている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 学校図書館の充実（学校司書配置継続と図書館との連携強化）

事業番号 学び 11 (75)

Purpose

(事業の目的)

学校図書館は、子どもが楽しく学び心育む上で重要な役割を果たす。また学校司書は、子どもと資料や情報をつなぐ不可欠な存在である。第6次総合計画「読書の一層の推進を図るための図書館との連携強化」「学校図書館への臨時職員の配置検討」（配置済）を「学校図書館の充実」とし更に向上させ継続する。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 小中学校図書館への学校司書配置継続
- 2 智頭図書館との連携強化
- 3 図書購入費の充実
 - ・学校図書館図書標準の達成

Do（目的達成のために実行したこと）

- 1 小中学校図書館へ学校司書を配置（臨時職員）
- 2 智頭図書館と連携し、授業支援や司書の研修を実施。
- 3 学校図書館の蔵書目標達成のための図書購入の予算化。

Act（目的達成のために改善する事）

- ・小学校では学校図書館図書標準を達成したが、中学校が未達成であり、平成30年度予算確保をし達成予定である。

Check（目的達成できたかを確認）

- ・小中学校図書館へ学校司書を配置した。
- ・図書の充実、智頭図書館との連携により、さらに子どもたちが読書に親しみ、学ぶ体制が確保できた。
- ・学校図書館を利用した授業が増えた。

《評価》

B 読書センターとして子どもたちはよく学校図書館を利用しており、学習センターとしても役割が確保されている。学校図書館の充実は、子どもが楽しく学び心育む上で重要な役割を果たすため今後も継続して事業に取り組む必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 智頭町教育ビジョンに基づく教育（成果の検証とさらなる向上対策の推進）

事業番号

学び 12 (76)

Purpose

(事業の目的)

智頭町を愛し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和がとれ、『生きる力』をもつ子どもを学校・家庭・地域で育成するという基本理念の達成のため教育ビジョンに基づき取組と検証を行う。

Plan（目的達成のための計画）

- ・ 創造的学習、地域学習の実施
- ・ 町内学校ボランティア人材の活用
- ・ 智頭町教育ビジョンの検証（平成25年3月 改訂版）

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・ 関係機関の連携（小学校、中学校、保育園、地域、教育委員会など）

Act（目的達成のために改善する事）

- ・ 智頭町教育ビジョンの見直し（平成25年3月 改訂版）

Check（目的達成できたかを確認）

それぞれの学校が工夫した学習を実践し、智頭町教育ビジョンに基づく教育が行われている。平成25年3月に改訂した智頭町教育ビジョンと現状とで変更が必要になっている部分が出てきた。

《評価》

C 関係機関が連携し、智頭町教育ビジョンに基づく取り組みが行われているが、平成25年3月の改定から見直しが必要な部分が出てきている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 青少年の健全育成の推進

事業番号

学び 13 (77)

Purpose (事業の目的)

青少年育成団体等と連携し、青少年の見守り活動に始まり、体験と交流を通したまなびの場を提供し、青少年の健全育成を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 青少年育成指導員のスキルアップと組織強化
- 青少年育成指導員によるサマーキャンプの開催
- 青少年育成指導員によるチャレンジ教室の開催

Do（目的達成のために実行したこと）

- 青少年育成指導員協議会
 - ・ 6回実施（サマーキャンプ、チャレンジ教室の実施について）
- サマーキャンプの実施
- 防災デイキャンプの実施

Act（目的達成のために改善する事）

- 青少年育成指導員のスキルアップと組織強化の推進
- 各種事業の振返りを翌年度事業に活かす

Check（目的達成できたかを確認）

- 青少年育成指導員協議会各事業の振返りの実施

《評価》

- C 防災デイキャンプの企画等、新しい取り組みも実施しつつ地域に寄り添った活動が実施できている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： ちづNEXT

事業番号 学び 14 (78)

Purpose

(事業の目的)

郷土愛を育む

Plan（目的達成のための計画）

○中学校の総合学習に地域と関わる学習を実施する。

Do（目的達成のために実行したこと）

○中学校への説明

Act（目的達成のために改善する事）

○継続して中学校側と協議を行う

Check（目的達成できたかを確認）

○説明したものの中学校側の反応は鈍く、今後の実施についての方向性が見えていない

《評価》

E：平成30年度の実現をすべく、所管課と連携をとって進める

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 地域の良さと歴史文化など、郷土を大切にする学習の導入

事業番号 学び 15 (79)

Purpose (事業の目的)

智頭町で生まれ育つ子どもたちが、智頭を学ぶことによって将来にわたって郷土に愛着を持ち、将来、智頭に住んでも、また、智頭の外に住んでも、郷土を愛する心の育成を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 総合的学習等の地域学習
- 2 林業体験

Do（目的達成のために実行したこと）

山村再生課、企画課との連携推進
百人委員会事業活用（中学校3年生）
5年生の林業体験

Act（目的達成のために改善する事）

各課と学校がWIN-WINとなるよう活動の見直しと工夫

Check（目的達成できたかを確認）

各課の事業を活用し、連携した授業実践ができた

《評価》

- C 各課の事業を活用し、連携した授業実践ができた。今後、各課と学校がさらに連携できるように見直しと工夫が必要になる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 図書館を中心にした賑わい創出（総合戦略事業）

事業番号 学び 18 (80)

Purpose (事業の目的)

平成32年度開館予定の新図書館は、住民に愛され必要とされる場となることを目指す。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 新規図書館利用者開拓
- 2 賑わい創出のための事業

Do（目的達成のために実行したこと）

- 福祉課前図書館コーナーの設置と運営
- 地域への出前講座
- 講演会、講座の開催
- ワークショップの実施
- 関係機関との事業検討

Act（目的達成のために改善する事）

- 未登録の児童・生徒への新規登録を働きかける
- 一般成人の図書館への関心を高める
- 関係機関への働きかけを強化する

Check（目的達成できたかを確認）

- 図書館の新規利用者は微増しているが、継続性のある利用につなげていくことが課題
- 関係機関との連携は検討が不十分

《評価》 C

新しい図書館が住民の居場所や交流の場となるために、図書館が読書や貸出だけの場ではないことを周知していきたい。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 各文化サークルの活動支援と参加者の加入促進

事業番号 学び 19 (81)

Purpose

(事業の目的)

智頭町文化協会の活動を支援し、文化活動への参加、サークルへの加入を促進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 智頭町文化協会の活動支援
- 智頭町文化祭の開催

Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭町文化協会活動費の補助
- 智頭町文化祭の開催
- サマーコンサート、ふれあいコンサートの開催

Act（目的達成のために改善する事）

- 文化協会加盟団体相互の連携強化のための代表者会の開催

Check（目的達成できたかを確認）

- 智頭町文化祭へ各団体からの展示物等の減少
- 文化協会会員の減少及び高齢化

《評価》

- 各文化サークルは、住民にとって多様な活動の場となっている。その中心となる文化協会は、加盟団体会員の減少及び高齢化が課題となっている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 文化財保護・活用方策の明確化

事業番号 学び 20 (82)

Purpose

(事業の目的)

文化財保護審議会等を通じて文化財保護に関する条例の整備、町民への啓発・意識向上を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 文化財保護審議会の開催
- 町内文化財の調査・研究

Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭町埋蔵文化センター開設
- 重要文化的景観申出

Act（目的達成のために改善する事）

- 重要文化的景観活用に向けて委員会の設置
- 智頭町埋蔵文化センター展示室の活用

Check（目的達成できたかを確認）

- 文化財保護審議会 委員の委嘱
- 智頭町埋蔵文化センター開設により
（出土品、資料等の整理、保存及び収蔵）
- 「智頭の林業」重要文化的景観に選定

《評価》

- 埋蔵文化財センター開設や重要文化的景観への選定等、新たな取り組みが形になった。今後は、地域住民とともに文化財保護へ取り組む。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 地域伝統文化の後継者育成

事業番号 学び 21 (83)

Purpose

(事業の目的)

伝統芸能、伝統文化保存会と連携し、後継者の育成を推進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 伝統芸能、伝統文化の保存活動の支援
- 無形民俗文化財の記録・保存

Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭町社会教育計画に具体的に記載
- 鳥取県教育委員会作成の「因幡の麒麟獅子舞」調査報告書に資料等の提供を行った

Act（目的達成のために改善する事）

- 行政や地域、住民が連携していく必要がある

Check（目的達成できたかを確認）

- 智頭町社会教育計画に示された事業を推進できなかった

《評価》

- 担い手の高齢化・後継者不足が大きな問題となっており、今後、住民とともに地域伝統文化保存への取り組みが必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 各地区公民館の地域の生涯学習拠点としての明確化

事業番号 学び 22 (84)

Purpose (事業の目的)

地域の生涯学習の拠点として地区公民館の運営、施設の維持・管理を行うとともに、公民館活動費の一部を委託料として支払う。

Plan（目的達成のための計画）

- 町内7地区公民館の運営、施設の維持管理等を各地区公民館と共同で行う
- 各地区公民館で自主・独創的な活動を熟成される。

Do（目的達成のために実行したこと）

- 富沢地区公民館、山郷地区公民館の一部をLEDで変更した
- 各地区公民館で独創的な事業に取り組んだ

Act（目的達成のために改善する事）

- 町主催の行事を事前に把握し、公民館行事の日程を調整した

Check（目的達成できたかを確認）

- 各地区公民館連絡協議会を開催し、事業の問題点等を話し合った

《評価》

- 各地域の交流・生涯学習の拠点として活発に活用されているが、老朽化も進んでおり今後随時修繕の手を入れていく必要が見込まれる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 各地区公民館と中央公民館の役割の明確化と連携強化の促進

事業番号 学び 23 (85)

Purpose (事業の目的)

地域の生涯学習の拠点として地区公民館事業とあわせて町全域を対象とする中央公民館事業を実施し社会教育の充実を図るとともに、地区公民館、中央公民館の連携を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 地域の生涯学習の拠点として町全域を対象とする公民館事業を展開し社会教育の充実を図る
- 統括公民館として各地区公民館の連絡を密に、中央・各地区館連携のもと、町民全世代の学習活動の拠りどころとなる施設づくり

Do（目的達成のために実行したこと）

- 各地区運動会、公民館祭の巡回視察

Act（目的達成のために改善する事）

- 中央公民館が町民全体を対象とした学習を開催する

Check（目的達成できたかを確認）

- 各地区公民館の行事を把握することができた。

《評価》

- 各公民館の連携の中心としての役割は果たせていたが、生涯学習の拠点としての機能は今後充実させていく必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 図書館事業

事業番号 学び 24 (86)

Purpose

(事業の目的)

住民の生涯学習の拠点として、資料を整備し専門職の司書によって図書館サービスと読書事業の展開を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 図書館サービスの充実と新規図書館利用者の開拓
- 2 子どもの読書環境の整備
- 3 地域資料の充実
- 4 高齢者の読書活動の支援
- 5 図書館利用啓発事業

Do（目的達成のために実行したこと）

- 図書館HPの活用
- 保育園・学校図書館との連携
- 地域資料寄贈のよびかけと献本の受入
- あたまイキイキ音読教室の実施と出前講座
- 図書館まつりの開催

Act（目的達成のために改善する事）

- 住民への図書館サービスPRの強化
- 保育園・学校図書館との連携の継続
- 地域資料の掘り起こし
- 音読をサポートする人材の育成
- 住民参画の図書館まつり企画

Check（目的達成できたかを確認）

- 図書館を利用する住民の割合を上げていくことが課題
- 保育園・学校図書館との連携による子どもの読書活動の推進
- 献本の依頼は増えたが、地域資料収集が今後の課題
- 音読教室(のべ100名参加)音読出前講座(のべ175名)の参加者増
- 図書館まつりの参加者増(のべ224名)

《評価》

C 図書館利用は増えているようだが、町民全体の利用や周知が今一步であり、今後の課題となっている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 智頭農林高校との連携

事業番号 学び 16 (87)

Purpose (事業の目的)

智頭農林高校の魅力アップを行うため、地域おこし協力隊を2名派遣し、学校に新しい風を吹かせ、農林高校の活性化を図る。
また、百人委員会学生部の部に参加し、学生自らが汗をかき、実践することで、やりがいを生まれることを目的とする。

Plan（目的達成のための計画）

- 百人委員会学生部の部への参加
- 地域おこし協力隊派遣による農林高校活性化

Do（目的達成のために実行したこと）

- 百人委員会活動の実践・企画提案会への参加
（智頭宿魅力アッププロジェクト、ちのりんショップの運営）

Act（目的達成のために改善する事）

- 地方と都会のニーズ把握
（出張ちのりんショップを通じ、地方と都会のニーズの違いを検証。
安定的な供給対策、智頭町の認知度向上を引き続き検討する。）
- 地元商店街との連携強化
（ちのりんショップの不定期開催を定期開催に変更し、商店街イベント
等とコラボして地域の活性化を図る。）
- 地域おこし協力隊を主軸とした新たなプロジェクトの発足
（高校生や地域住民に誇りや愛着をもってもらえる新たな企画の提案）

Check（目的達成できたかを確認）

- 百人委員会活動への参加により、智頭宿の魅力向上、商店街の活性化につながった。
＜智頭宿魅力アッププロジェクト（格子製作・藍染のれん製作）＞
格子製作は地域の認知度も徐々に向上している。
藍染のれん製作では、県外の先進地視察等を通じ、藍染交流が図れた。
＜ちのりんショップ運営＞
くつろぎタイムカフェとして店内にカフェスペースを設け、学校圃場で栽培した野菜等の販売を実践し、賑わい感を演出できた。
また、修学旅行に併せ出張ちのりんショップを岡本商店街で開催し、学校生産物の付加価値に気付くことができた。

《評価》

C：継続的な事業でマンネリ感はないものの、事業アレンジや改善策の立案など、自分たちの活動に対する誇りや地域への愛着心は育まれている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名：森林・林業教育の推進（児童・生徒の学習体験・木育の推進等）

事業番号

学び 17 (88)

Purpose (事業の目的)

幼少期から木にふれあうことで森林に関心をもつことを醸成し、加えて子育て世代へ向けて木（木材）の良さを普及することにより、生活の中における木材への関心を深めるとともに、町内の学校と連携して、森林・林業教育をサポートしていくこと。

Plan（目的達成のための計画）

- 町内の新生児に木製おもちゃ（智頭町産材製）を誕生記念として贈呈
- 智頭小学校の林業学習に係る支援

Do（目的達成のために実行したこと）

- 平成29年1月～12月に誕生された新生児32名に積み木を贈呈した。智頭杉を使用し、積み木に動物のイラストを、積み木を入れている木の箱の表面に、赤ちゃんの名前、生年月日をレーザーで加工し、特別な記念品とした。
- 木育キャラバンin智頭町を開催。木のぬくもりを直接手に触れて感じてもらい、子育て世代への木への理解を深める活動として開催。
- 智頭小学校5年生の林業学習の支援。智頭小学校の林業学習の一環で、5年生（47名）が参加し、木の伐倒作業を体験した。

Act（目的達成のために改善する事）

- 次年度は、智頭農林高等学校、智頭町木材協会（木女会）の3者での連携を密にとれる体制づくりを行う。木のおもちゃ製作に係るスケジュールの提示をし、木育キャラバン開催時に贈呈式を行うことができるよう行動する。
- 林業学習は小学校と連携、調整し引き続き実施する。地域のこども達が、より分かりやすく智頭林業を学び、実際に林業へ関わりを持つ方のお話を聞くことで智頭林業への理解を深めたい。

Check（目的達成できたかを確認）

- 木のおもちゃの選定期間が12月となり、納品が3月中旬となったため、代表者2組を招待して、平成30年4月に贈呈式をおこなう予定。
- 木育キャラバンin智頭町では、町内外の子育て世代140名が参加され、木育について広く知っていただくきっかけづくりができた。
- 智頭小学校の林業学習では、役場職員が主体となり伐倒作業の指導をおこなった。

《評価》

C：今回製作した木のおもちゃは、氏名・お誕生日をレーザー加工したことで、特別な記念品として大変好評である。幼少期から木のぬくもりに触れ、あたたかみを感じることで、子育て世代に広く智頭林業や木材への関心を深めるとともに智頭小学校の生徒と木の伐採を体験することで、木への関心が高めることができ、目的に近づくことができた。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 企業支援事業

事業番号 仕事 12 (89)

Purpose (事業の目的)

経済活性化と雇用機会の確保・創出のため、企業ニーズに応じた柔軟な補助制度の検討、創設を行う。また、町内製品等を公共事業や補助事業等に採用するための条例を制定し、地場産業を強化する。

Plan（目的達成のための計画）

- 町内企業訪問による個別ヒアリングシートの作成
- 智頭町・鳥取県補助制度の周知
- 関係機関との情報共有（商工会、信用保証協会、銀行、他自治体等）
- 既存補助制度内容の精査・検討並びに新たな補助制度の検討・創設（商工会、信用保証協会）

Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な町内企業訪問の実施、ヒアリングシートの作成
- 関係機関との新たな補助制度創設に向けた事業協議開催
・3回実施（信用保証料補助制度の確立）
- 現行補助制度の内容精査・改正の検討の実施

Act（目的達成のために改善する事）

- 企業ニーズに応じた柔軟な補助制度の創設、並びに現行補助制度の改正（町内企業の経営安定化、地場産業の活性化を促進するための新たな補助制度の創設を始め、起業を促進するために現行補助制度の一部改正を実施し、地場産業の活性化をはじめ、業務拡大・雇用促進に結びつける）
- 商工会との連携による補助制度周知の徹底（商工会と連携して補助制度情報を周知し、相談しやすい体制を構築する）

Check（目的達成できたかを確認）

- 町内企業訪問の実施により各事業所が抱える懸案事項、今後の設備投資などの情報を知り得ることができた
- 関係機関との情報共有・事業協議を行うことにより、町内中小企業の融資の状況を確認でき、官民連携による新たな補助制度創設の検討実施
- 現行補助制度の内容を検証し、より柔軟かつ活用しやすい制度内容への改正を検討し、信用保証料補助制度を創設。

《評価》

B：新たな補助制度の創設により、町内中小企業の事業の活性化や経営の安定化などに寄与すると考えられる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 商店街との連携による空き店舗の活用検討

事業番号 仕事 13 (90)

Purpose (事業の目的)

かわらまち商店街の空き店舗は持ち家である場合が多いが、意向調査を行い、起業・創業・チャレンジショップなど、賑わい創出に受けて活用を検討していく。

Plan（目的達成のための計画）

- 智頭農林高校との連携による商店街店舗の活用（ちのりんショップ）
- 空き家実態調査の実施による空き店舗状況の把握

Do（目的達成のために実行したこと）

- かわらまち商店街でのちのりんショップの開催（年間10回開催）
平成29年度は兵庫県岡本商店街での出張ちのりんショップも開催
- 空き家実態調査を実施し、空き店舗の所在や老朽化状況を把握

Act（目的達成のために改善する事）

- 現行ちのりんショップの定期開催に向けた検討会の開催
（平成29年度のちのりんショップは不定期開催であり、情報周知等が図れていなかったこともあり来店者数が伸び悩んだ。今後、地域と連携を取り、イベント開催等を通じて来店者数を増やす。）
- 空き家実態調査の調査結果を肉付けし、今後町内で起業・創業を検討している方々を対象に情報公開を行い、商店街の活性化に努める。

Check（目的達成できたかを確認）

- ちのりんショップの開催を通じて、地域の方々が訪れ、商店街の活性化に貢献した。
- 空き家実態調査を実施したことにより、商店街のみならず、町内の空き家・空き店舗の実態の見える化につながった。

《評価》

C：智頭農林高校との連携によるちのりんショップの開催は閑散化した商店街の活性化に一石を投じているものの、常時開催ではないため、一時的なイベントとなっている。今後は空き家実態調査の結果を基に、起業・創業に向けた店舗情報の提供等に努め、かつての賑わいを取り戻せるよう努める。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： イベント活性化促進事業

事業番号 仲間づくり 3 (91)

Purpose

(事業の目的)

町内のイベントに出店団体の参加を促す。

Plan（目的達成のための計画）

- 町のイベントを盛り上げるために「杉小判」を活用し、出店者の増加を目指すことで、町全体の盛り上がりを図る
- 制度の周知。
- 制度について問題点等の検討。

Do（目的達成のために実施したこと）

- イベント出店者へ直接的なPR活動を行い、周知した
- 広報等での周知。

Act（目的達成のために実行する事）

- イベント実行委員会等での制度PRの実施。

Check（目的達成できたかを検証）

- 直接的なPR活動によって、制度の周知はできた。今後出店者の増加に期待。
- 出店者へのアンケート調査が実施できていないため、今後実施に向けて調整する

《評価》

B：更なる周知活動に力を入れ、賑わい創出の観点から町内イベントに出店する団体を増やす必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： ゼロイチの更なる発展

事業番号 仲間 4 (92)

Purpose (事業の目的)

平成9年度から始まっている日本1/0村おこし運動は現在、地区振興協議会を中心に活動している。この地区振興協議会のソフト事業に対し補助を行う。また、地区振興協議会が行政と住民の中間的組織となり、地域活性化となる事業を行う。また、事務局員に地域おこし協力隊、集落支援員等を配置し、事業運営を促進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 定期的な連絡協議会の開催
- 各地区振興協議会事務局との連携強化
(各地区事務局との相談しやすい体制を構築)

Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な連絡協議会の開催による情報共有
- 関係者との事業協議の場の設置（鳥取県東部振興課）
- 現行補助制度が終了する地区への新たな制度策定の検討

Act（目的達成のために改善する事）

- 補助制度終了後の地区のサポート
(補助制度が終了した地区に向けての新たな支援策を検討し、持続的な自立運営に結び付ける)
- 継続的な関係者との連携及び強化
(引き続き各地区振興協議会が連携を取り、地域活性化の強化を図る)

Check（目的達成できたかを確認）

- 連絡協議会の開催により、各地区の状況など情報共有が図れた
- 自立運営に向け、新制度の策定はしない方向性で決着

≪評価≫

C：地区ゼロイチ開始後10年経過する地区もあり、今後のサポート体制が課題。また、自立運営に向けた地域計画等の作成に向け、有用な補助制度の活用等視野に入れる必要性あり。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 空き校舎等活用推進

事業番号 仲間 7 (93)

Purpose (事業の目的)

廃校となった5つの空き校舎を地元住民が活用について検討し、地域に見合った利活用を検討し、実践する。
また、活用するにあたり、インフラ整備については、行政が一部補助を行い、空き校舎の利活用を推進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 各地区内の空き校舎の利活用に向けた事業協議の実施
- 智頭町補助制度の周知
- 利活用に向けた企業誘致等

Do（目的達成のために実行したこと）

- 空き校舎の利活用に向けた事業協議の実施
(テレワーク事業の推進、キクラゲ選別作業所の建設等)
- 要望内容に対する予算確保
- 現行補助制度の内容精査・改正の検討の実施

Act（目的達成のために改善する事）

- 今後必要となる事業の精査並びに事業計画の策定
(空き校舎を活用した収益事業の確立や企業誘致など、長期的な事業計画の策定を促し、地域の活性化を図る)
- 鳥取県補助制度の有効活用
(鳥取県の補助制度を有効活用し、今後地域づくりを進めていく上で重要となる地域計画づくりの実施)
- 外部有識者の有効活用

Check（目的達成できたかを確認）

- 事業協議の実施により、各地区での今後の活用計画などの情報を
知り得ることができた
- 現行補助制度の内容を検証し、より柔軟かつ活用しやすい制度内容への
改正を検討
(一部地区における交付要綱の取扱いを作成)

《評価》

C：地域に見合った利活用の検証、実践については一定の効果あり。今後の検討課題として整備したものをいかに活用し、地域の活性化・自立運営を定着させるかが検討課題。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 空き校舎等利活用研究事業

事業番号 仲間 8 (94)

Purpose (事業の目的)

空き校舎等の利活調査を5地区が連携して行い、持続性を高める。

Plan（目的達成のための計画）

- 既存補助制度の見直しを行い、新制度を策定
- 空き校舎等利活用幹事会の開催による情報共有・要望調査の実施
- 空き校舎利活用の先進地の活用事例等の研究

Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な利活用幹事会の実施による各地区要望調査
- 全国的な空き校舎利活用先進地の活用事例等の研究
- 現行補助制度に代わる新たな補助制度の創設
※これまでの各地区における活用検証から全町へシフト
「空き校舎等利活用推進補助金（各地区に対し200千円補助）」
↓
「空き校舎等利活用懇談会補助金」
（利活用検証団体に対し300千円補助）
※先進地視察研修の実施（山口県・福岡県）

Act（目的達成のために改善する事）

- 各地区での研究や、先進地視察で得た情報を具現化
（これまでの研究成果や、先進地視察を通じて得た情報を持ち帰り、それぞれの地区でできることを検証し、アウトプットする）
- 引き続き各地区の連携強化を図り、各地区独自の利活用・活性化を検討
（今後も各地区が情報共有を図り、企業誘致等を始め独自の取り組みを検証し、地域経営や活性化に結び付ける）

Check（目的達成できたかを確認）

- 利活用幹事会を通じて各地区が検討している課題についての情報共有が図れた。
- 関係機関との情報共有・事業協議を行うことにより、町内中小企業の融資の状況を確認でき、官民連携による新たな補助制度創設の検討実施

《評価》

C：先進地視察などを通じて得た情報を今後いかに活用するか検証の必要性あり。今後も引き続き各地区振興協議会間の情報共有・連携に努める。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 地域体育館（空き校舎）の生涯学習・交流の場として活用

事業番号 仲間づくり 9 (95)

Purpose (事業の目的)

廃校となった後、現在は地区公民館、地元の体育施設等として活用されている。住民が慣れ親しんだ学校施設である。今後もできる限りの補修を続け、地域のスポーツ・文化活動等に活用することで、ふたたび小学校を教育の拠点として、また、地域住民の交流の場としての活用を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 今後もできる限りの補修を続け、地域のスポーツ・文化活動に活用

Do（目的達成のために実行したこと）

- 各地区公民館に施設使用の許可等を依頼している
- 軽微な修繕を行った

Act（目的達成のために改善する事）

- 各地区毎の団体等に利用してもらえるよう調整を行っている

Check（目的達成できたかを確認）

- 施設使用料について、地区公民館と協議している

《評価》

- 地域のスポーツの場として、また催しの場として希望に応じて利用されている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 百人委員会

事業番号 仲間 11 (96)

Purpose (事業の目的)

町民自ら実行することによる町政への参加意識の醸成と、一般の部と学生の部のそれぞれ活動することにより、子どもの頃から自分が行動することで町が変わることを意識づけが目的である。

Plan（目的達成のための計画）

- 百人委員会委員募集 目標100人
- 百人委員会総会・企画提案会実施
- 運営委員会開催（部長、副部長が情報共有し、百人委員会のPR、部会同士の連携などについて話し合う）
- 百人委員会について、今までのやり方でよいかあり方について検討する

Do（目的達成のために実行したこと）

- 百人委員会出発式（H29.5.30）
- 百人委員会運営委員会
 - ・5回実施（活動展示・PRポスター作成・運営委員会からの提案）
- 百人委員会企画提案会
 - ・一般の部7事業、学生の部4事業
- 百人委員会委員募集（PRポスター作成）
- 各部会取組PR（ルバーブジャム販売促進、生活環境部会広報掲載）
- 百人委員会の進め方検討（運営委員会事務局会）
- 百人委員会総会（活動の報告）

Act（目的達成のために改善する事）

- 百人委員会のあり方検討を進める。
（委員の固定化・活動人口減少を食い止めるために、部会の枠のない企画会を開催など。決まったことは総会で提案）
- 百人委員会PR方法を検討。
（様々な人が参加し、様々な提案に結びつけるため）
- 10周年記念誌作成について運営委員会で計画を進める。
- 智頭NEXTを中学1年生を対象に実施し、智頭町について学ぶ機会を創出する。

Check（目的達成できたかを確認）

提案が一般の部で7事業、学生の部で4事業あり、参加意識の醸成ができていていると考えられるが、事業のマナー化や活動している人が固定化してきている。また、中学生の部については、教員の関わりが多くなっている。自主的な学ぶや課題解決となっていない現状がある。

《評価》

C：百人委員会開始後10年経過し、課題が多くなってきている。現状維持ではなく、運営委員会で課題解決のため検討することができた。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 総合計画周知及び実践事業（検証含む）

事業番号 仲間づくり 12 (97)

Purpose (事業の目的)

第7次総合計画の内容を住民に周知し、役場の仕事を知らせてもらう。また、それについて実践したことを検証、評価し、公表することで住民に理解を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 総合計画副読本を作成し、住民に周知する。
- 年度終了後速やかに、各課で事業を検証し、公表する。

Do（目的達成のために実行したこと）

- 総合計画が住民の生活に密接に関わり、身近であることを感じていただくため、キャッチフレーズを智頭暮らしの道しるべとした。総合計画掲載事業と繋がっている活動をしている住民ヘインタビューを行い、総合計画副読本に掲載した。
- 総合計画副読本を全戸に配布した。
- 進行管理検証シートを作成し、各課に事業検証を照会した。

Act（目的達成のために改善する事）

- 事業検証の公表方法を住民の目に触れやすくする。
- 副読本作成だけで終わるのではなく、町の事業に関心を持ってもらう方法を考える。

Check（目的達成できたかを確認）

- 全戸に配布したため、目を通していただけた人も多かったと思う。
- 事業の検証については、事業終了後となるため、次年度の公表となる。

《評価》

C：総合計画副読本作成により、町が進めている事業について理解が深まり、住民の生活に繋がっていることが伝わったと感じる。より一層、一人ひとりの人生に寄り添うことを考えると事業評価の伝え方、事業の追加についても随時公表方法を伝わりやすいものにする検討が必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 国内交流事業の積極的な推進

事業番号 仲間 16 (98)

Purpose (事業の目的) 他市町村との交流の場を設けることにより、智頭町を全国的にPRする。
相互的な交流を行うことで他市町村の取組、文化等を知り、新たなまちづくりのきっかけをつくる。
また、交流を通して智頭町を見つめ直し、強みを活かした特色あるまちづくりに繋げる。

Plan（目的達成のための計画）

- 摂津市農業祭に参加
- 智頭町のPR

Do（目的達成のために実行したこと）

- 各地区に摂津市農業祭への参加を呼びかける
- 参加地区の生産物を摂津市に運搬、販売
- 智頭町のPRを実施（疎開保険等）

Act（目的達成のために改善する事）

- 摂津市だけでなく他の市町村との繋がりをつくる。
- 疎開保険の特産品の搬送について、販売する食材と絡めてPRを行い、智頭ファンの獲得に結びつける。
- 智頭町のイベントに摂津市に参加してもらうよう提案

Check（目的達成できたかを確認）

智頭の生産物が好評であり売り上げは良かったが、生産物目当ての来場者が多く町のPRはあまり出来なかった。
また、現状では智頭町が摂津市で生産物を販売する一方通行のイベントとなっており、相互的な交流とは言い難い。

《評価》

C：相互的な交流が十分に出来ていない。

第7次総合計画 進行管理検証シート（平成29年度事業）

事業名： 国際交流の推進

事業番号 仲間づくり 17 (99)

Purpose (事業の目的)

1999年に友好提携を締結した大韓民国江原道楊口郡と青少年交流、民間団体交流、職員交流などを行うことで、他国の文化や制度を知り、人材育成や地域間の交友を深める。

Plan（目的達成のための計画）

- 智頭杉植樹事業（平成29年5月4日～7日）
- 青少年交流事業（7月28日～8月1日）
- 職員短期研修事業（9月11日～17日 智頭→楊口）
（10月16日～22日 楊口→智頭）
- 経営者交流及び実務者協議（11月11日～14日）

Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭杉の種を贈呈し、育成方法を役場の山村再生課より説明した。
- 学生同士の交流を教育課が主体となって実施した。
- 行政事業の視察
- 翌年度の国際交流事業についての協議

Act（目的達成のために改善する事）

- スムーズな研修を目指し、各事業のスケジュールを早めに決定すること。

Check（目的達成できたかを確認）

前年度の実務者協議で決めた事業を実施することができた。特に、植樹事業については楊口郡側より種が無事発芽したとの報告があり、今後の交流事業につ繋がりそうである。

《評価》

C：翌年度に繋がる交流内容となった。